

【平成27年度】

熊本市教育振興基本計画 基本理念

学び わく わく くまとの人づくり

～ 徳・知・体の調和のとれた教育都市くまもとを目指して ～

4つの人づくり

- 学びを求める人づくり
- 学びを深める人づくり
- 学びを活かす人づくり
- 学びでつなぐ人づくり

熊本市教育方針

本市教育は、恵まれた自然と先人が築いた伝統文化のもとで、社会の進展に対応する教育を構築しながら、公共の精神を尊び、豊かな人間性と創造性を備え、「徳・知・体」の調和のとれた次世代を担う子どもたちの育成に努めるとともに、市民が生涯にわたって、健康で生きがいと潤いのある生活を営むことができる生涯学習社会の実現を目指す。このような教育を推進するにあたり、学校・家庭・地域社会は、人間尊重の精神を基本にしながら、それぞれの責任と使命を自覚し、連携して取り組むこととする。

教育目標

- ◎ 学校・家庭・地域社会における様々な教育活動を通して、社会全体で子どもたちの「生きる力」を育成する。
- ◎ 多様な教育機能の整備・充実を図り、歴史的文化遺産を継承し、市民の生涯にわたる自発的な学習活動を奨励・支援する。

取り組みの方向

II 生きる力をはぐくむ学校教育の推進

I 乳幼児期における教育の推進

- 《幼児教育の充実》
 - 市立幼稚園の充実
 - 私立幼稚園への支援
- 《子どもたちの成長支援》
 - 子どもたちの活動支援
 - 子どもに関する相談体制の充実
- 《家庭教育の環境整備》
 - 家庭教育の充実
 - 社会的・経済的負担の軽減
 - 地域における子育て支援の充実

- 《豊かな人間性の育成》
 - 心の教育の推進
 - 教育相談の充実
 - 特別支援教育の充実
 - 人権教育の推進
- 《確かな学力の向上》
 - 教育内容の充実
 - 学校図書館の充実
 - 就学支援の充実
 - 国際教育の推進
 - 教育の情報化の推進
 - 教職員研修の充実

- 《健やかな体の育成》
 - 健康づくりの推進
 - 食育の推進
- 《教育環境の整備》
 - 学校施設の整備
 - 学校安全の推進

- 《学校・家庭・地域社会の連携の推進》
 - 学校・家庭・地域社会との連携

III 市民の生涯を通じた学習の推進

- 《学習活動の充実と支援》
 - 市民のニーズに対応する学習の充実
 - 公民館・図書館・博物館の機能充実
 - 青少年の体験・交流活動の推進
- 《生涯スポーツの振興》
 - 地域スポーツ機会の充実
 - スポーツ施設の活用
- 《文化の振興と文化財の保全・活用》
 - 文化の振興
 - 文化財の保全・活用

アクションプログラム（平成26～28年度）

- 1. 豊かな心の育成
- 2. 学力・体力の向上
- 3. 特別支援教育の充実
- 4. いじめ・不登校等への対応
- 5. 学校支援の充実
- 6. 教職員の育成
- 7. 図書館・博物館の充実

アクションプログラム（平成 26 年度～平成 28 年度）（工程表は省略）

【アクション 1】 豊かな心の育成

生命や人権を尊重する心、他者を思いやる心、自然や美しいものに感動する心、正義感や公正さを重んじる心など、子どもたちの豊かな人間性や社会性を育むために、自然体験活動や勤労体験学習、道德教育の推進に努めます。

また、学校・家庭・地域等が一体となって子どもたちを育成するため、子育てに関する情報や、親としての学びを支援する機会を提供します。

【アクション 2】 学力・体力の向

子どもたちが、学ぶ楽しさ・分かる喜びを実感できるよう、一人ひとりを大切にした授業の確立を図るとともに、学ぶ意欲を高め、確かな学力の向上に努めます。

また、生涯に渡って健康で豊かな生活を送るため、子どもの健康増進と体力向上を推進します。

【アクション 3】 特別支援教育の充実

特別支援教育推進計画に基づき、特別な教育的支援を必要とする子ども一人ひとりの教育的ニーズに応えるため、子どもの多様な学びの場を確保するとともに、教員の専門性を高め、指導や支援の充実を図ります。

【アクション 4】 いじめ・不登校等への対応

いじめが、いじめられた子どもの心身に深刻な影響を及ぼす許されない行為であることを、子どもが十分に理解し、すべての子どもが安心して学校生活を送ることができるよう、また、学校の内外を問わず、いじめが行われなくなるように、国、県、市、学校、家庭、地域その他の関係者が連携していじめの問題を克服することを目指します。また、不登校を未然に防止するため、小中連携を推進するとともに、相談体制の充実を図ります。

【アクション 5】 学校支援の充実

教育活動において、支援を要する学校に学級支援員を派遣し学習環境の改善を図るとともに、いじめや不登校、生徒指導上の諸問題の解決を図るため、学校の支援体制を充実します。

また、学校支援ボランティアや運動部活動ボランティアなどの地域人材を学校教育活動に活用し、学校・家庭・地域等が一体となった取り組みを進めます。

さらに、教職員の児童生徒と向き合う時間確保のため、教職員の負担の軽減に努めます。

【アクション 6】 教職員の育成

「教育都市くまもとの教職員像」の実現に向け、本市の教育に必要な資質・能力を備えた人材を育成するために、校内研修やキャリアステージに応じた研修の充実に取り組みます。

【アクション 7】 図書館・博物館の充実

市民に利用しやすい図書館を実現するため、本館、分館、公民館図書室のあり方を検討し、ニーズに応じた図書館サービスの拡充・強化を図ります。

また、博物館が有する価値ある資料及び学芸員の専門的な知識を、学校現場における学習活動に活用することで、子どもたちの感受性や学習意欲を高めます。

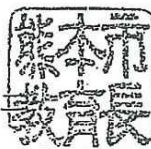
要 望 書

平成27年12月3日

熊本大学教育学研究科長 殿

熊本市教育長

岡 昭



熊本大学教育学研究科教職大学院カリキュラムへの要望について

熊本市の教育現場における課題は複雑・多様化しており、それに伴い教員にも高い資質が求められてきております。このような中で熊本大学に教職大学院が設置されることにより、こうした諸課題に対応しうるより高度な専門性と豊かな人間性・社会性を備えた力量ある教員の養成に取り組んでいただけることと期待しております。

ついては、「①熊本市の教育課題」に対応できる「②能力を持った教員」を養成するため、「③教職大学院のカリキュラムに必要な科目」を組み入れていただくよう検討をお願いしたい。

① 熊本市の教育課題

- ・ 豊かな心の育成
- ・ 確かな学力の向上と健やかな体の育成
- ・ 特別支援教育の充実

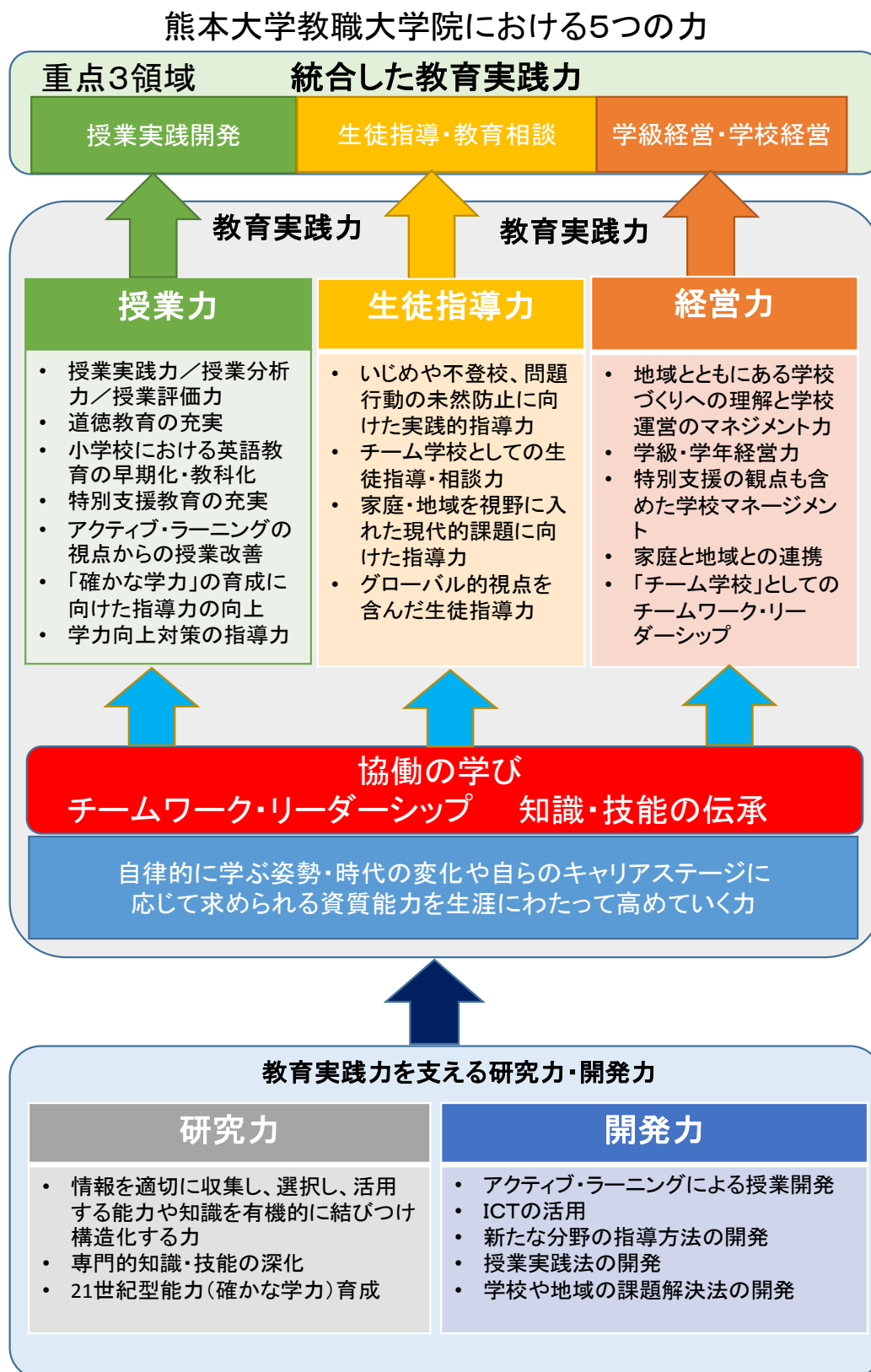
② 教育課題に対応するために教員に必要な能力

- ・ 豊かな人間性や社会性及びすぐれた人権感覚
- ・ 授業力と学び続ける力
- ・ 幅広い教養と専門的な知識に基づく実践的指導力

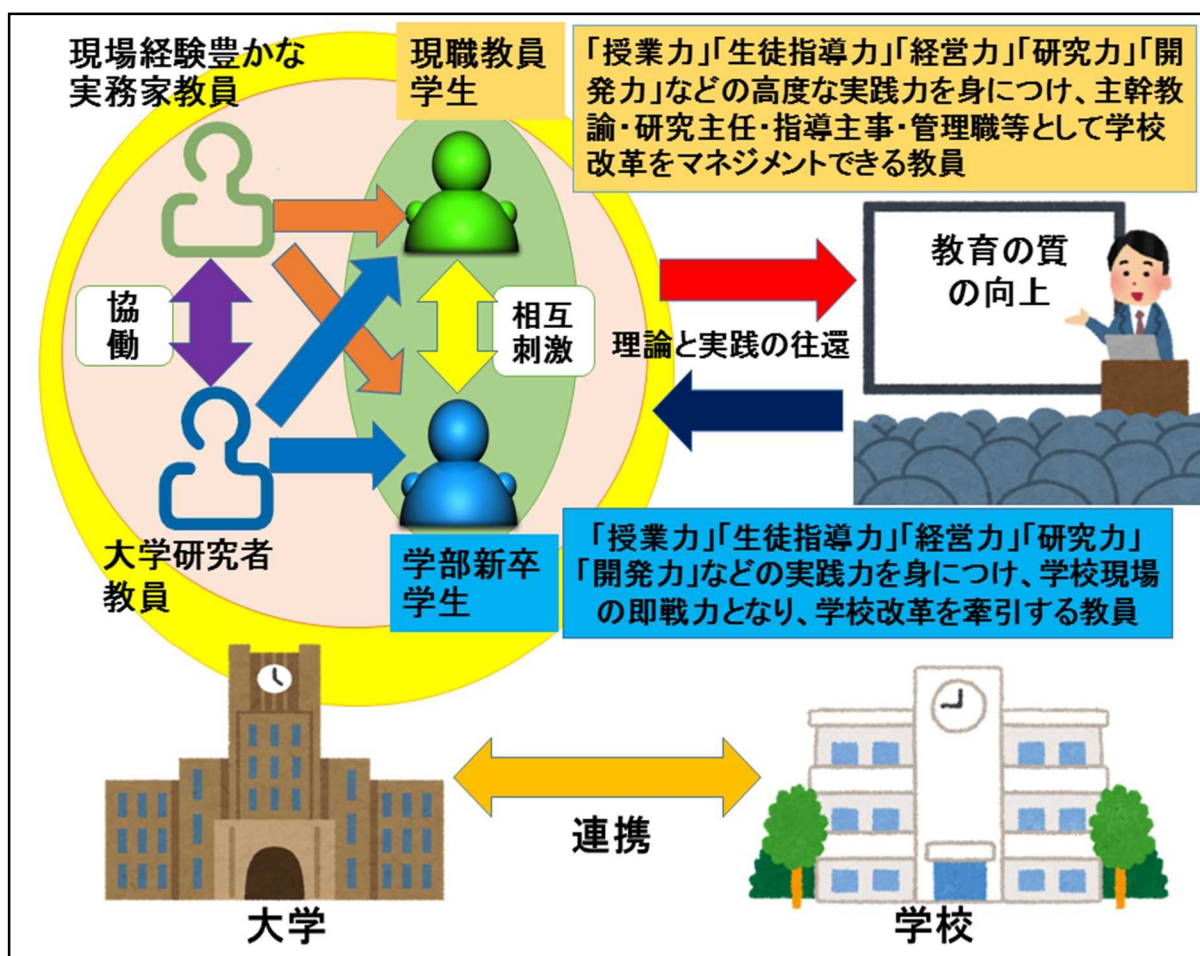
③ 上記を踏まえた教職大学院のカリキュラムに必要な科目

- ・ いじめ・不登校等の未然防止や対応に向けた生徒指導・教育相談演習
- ・ 子どもの主体的・協働的な学びを保障する指導方法研究
- ・ 特別支援教育実践研究

図 1 大学院教育で養成する力量と 5 つの力と重点 3 領域との関係



参考資料3 図2 新専攻（教職大学院）のイメージ



参考資料 4

表 1 開講科目一覧と「共に学ぶ科目」、「経験に応じて学ぶ科目」

(○印は必修科目、その他は選択科目、◎印は共に学ぶ科目、◇印は経験に応じて学ぶ科目)

	領 域	授 業 科 目	学 び 方	単 位		1 年次		2 年次	
				必 修	選 択	前 期	後 期	前 期	後 期
共通科目 (22単位)	共通5領域 (20単位以上とること) (選択必修)	教育課程の編成・実施	◎	②		2			
		学校カリキュラム・授業の改善を図るためのマネジメント	◎	②			2		
	実践的な指導方法	「21世紀型能力(確かな学力)」を育成する協働的な学びの授業デザイン	◎	②		2			
		小学校英語活動の授業デザイン	◎	選択必修2	2	2			
		ICT 教育実践論	◎	2		集中2			
	生徒指導・教育相談	生徒指導実践論	◎	②		2			
		教育相談実践論	◎	②		2			
	学級経営・学校経営(注1)	学級経営の実践と課題	◇	選択必修4	2	2			
		学校マネジメントと学校改善	◇	2		2			
		学校教育と集団心理療法	◇	2	2				
	学校教育と教員の在り方	現代教員論	◎	②		2			
		学校と地域社会(地域と共にある学校づくり)	◎	②			2		
	複合領域(*複合領域からも2単位以上とること)(選択必修 注2)	特別支援教育実践研究論	◎	選択必修2	2		集中2		
		ネット教育コミュニケーション論	◎	2		集中2			
教育実践研究科目(10単位)現場が抱えている問題について共同研究(全員担当)	教育実践研究Ⅰ(注3)		◇	④		通年4			
	教育実践研究Ⅱ		◎	④				4	
	教育実践研究Ⅲ		◎	②					2
専門科目 (16単位)	専門共通必修領域(全員担当)		◎	②				2	
	実践課題研究		◎	④				2	2
	授業実践開発	学習科学・授業研究方法と授業開発・実践研究	◎	選択必修(6+4)	2		2		
		小学校英語活動の授業開発・実践研究	◎		2		2		
		「豊かな心」を育む授業実践の開発	◎		2			2	
	生徒指導・教育相談	生徒指導問題解決方法(Ⅰ)	◎		2		2		
		生徒指導問題解決方法(Ⅱ)	◎		2		2		
		道徳教育と生徒指導	◎		2			2	
	学級経営・学校経営	学校と家庭・地域の連携構築	◎		2		2		
		学校の危機管理の理論と実践	◎		2		2		
		教育コミュニケーションデザイン特論	◎		2			2	

注1：現職教員学生は、「学校マネジメントと学校改善」が必修で、「学級経営の実践と課題」と「学校教育と集団心理療法」は選択である。学部新卒学生は、「学級経営の実践と課題」が必修で、「学校マネジメントと学校改善」と「学校教育と集団心理療法」は選択である。

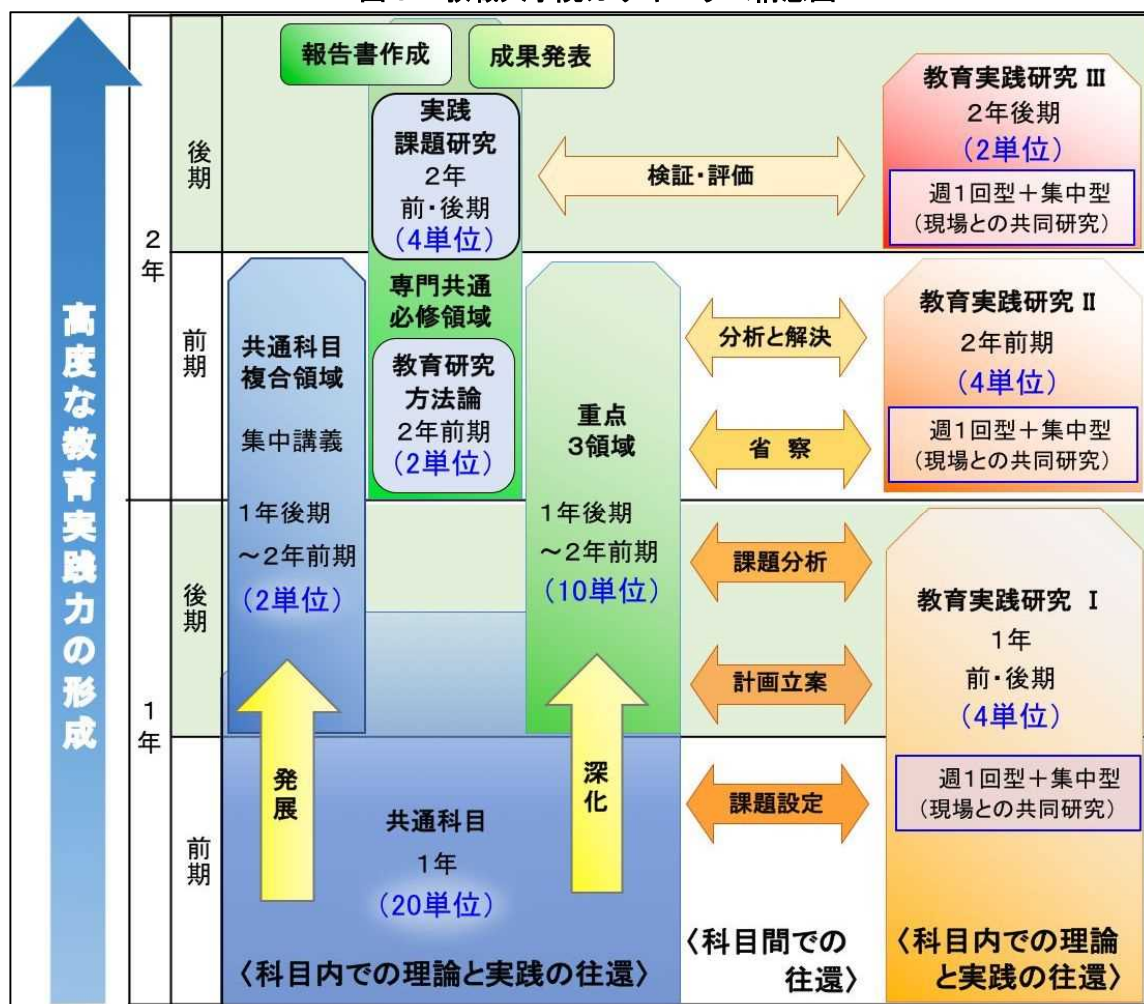
注2：複合領域3科目の中から2単位以上とること(選択必修)。

注3：学部新卒学生は、3領域「授業実践開発」、「生徒指導・教育相談」、「学級経営・学校経営」にそれぞれ対応する内容の「教育実践研究Ⅰ」を計160h履修し、4単位を修得する。現職教員学生は、「教育実践研究Ⅰ」（160h）は自分の選択した領域で行う。

注4：重点3領域は、1つの核となる領域を選択して、その領域の3科目（6単位）を全て履修し、その他の領域から各2単位ずつ計4単位を履修し、合計10単位以上を修得する。

参考資料5 教職大学院カリキュラム構想図

図3 教職大学院カリキュラム構想図



参考資料6 授業担当教員

教育学研究科 教職実践開発専攻 共通科目・教育実践研究科目・専門科目の開設科目			
	領域	授業科目	担当教員
共通5領域*5領域は各領域4単位以上とすること (選択必修)	教育課程の編成・実施	「21世紀型能力(確かな学力)」を育成するカリキュラム・デザイン	研究者: 中山玄三(教育課程・授業開発)、ビダーソン・クレランス(応用言語学・英語教育) 実務家: 前田康裕(教育方法学・情報教育)、宮脇真一(教育方法学・情報教育) 兼任: 藤瀬泰司(教科教育学(社会科)、教育課程・授業開発論)、長嶺寿宣(英語教授法・応用言語学)
		学校カリキュラム・授業の改善を図るためのマネジメント	研究者: 中山玄三(教育課程・授業開発)、白石陽一(授業論・教科外教育論)、ビダーソン・クレランス(応用言語学・英語教育) 実務家: 前田康裕(教育方法学・情報教育)、宮脇真一(教育方法学・数学教育) 兼任: 田口浩継(教科教育学、技術科教育)、長嶺寿宣(英語教授法・応用言語学)
	実践的な指導方法	「21世紀型能力(確かな学力)」を育成する協働的な学びの授業デザイン	研究者: 中山玄三(教育課程・授業開発)、ビダーソン・クレランス(応用言語学・英語教育) 実務家: 宮脇真一(教育方法学・数学教育)、前田康裕(教育方法学・情報教育) 兼任: 藤瀬泰司(教科教育学(社会科)、教育課程・授業開発論)、長嶺寿宣(英語教授法・応用言語学)
		小学校英語活動の授業デザイン	研究者: ビダーソン・クレランス(応用言語学・英語教育)、中山玄三(教育課程・授業開発) 実務家: 前田康裕(教育方法学・情報教育)、宮脇真一(教育方法学・数学教育) 兼任: 長嶺寿宣(英語教授法・応用言語学)
		ICT 教育実践論	兼任: 塚本光夫(教科教育学・情報教育) 実務家: 前田康裕(教育方法学)
	生徒指導・教育相談	生徒指導実践論	研究者: 藤中隆久(生徒指導・臨床心理学)、白石陽一(授業論・教科外教育論) 実務家: 杉原哲郎(教師教育学)、濱平清志(教師教育学)
		教育相談実践論	研究者: 藤中隆久(生徒指導・臨床心理学)、白石陽一(授業論・教科外教育論) 実務家: 杉原哲郎(教師教育学)、濱平清志(教師教育学)
	学級経営・学校経営	学級経営の実践と課題	研究者: ハツ塚一郎(集団心理学・組織コミュニケーション論)、吉田道雄(集団力学・学校組織経営学) 実務家: 長濱茂喜(教育経営学)、太田恭司(教育経営学)
		学校マネジメントと学校改善	研究者: 岩永定(教育経営学・教育行政)、吉田道雄(集団力学・学校組織経営学) 実務家: 長濱茂喜(教育経営学)、太田恭司(教育経営学)
		学校教育と集団心理療法	研究者: 高原朗子(臨床心理学・特別支援教育学)、ハツ塚一郎(集団心理学・組織コミュニケーション論)、吉田道雄(集団力学・学校組織経営学) 実務家: 浦野エイミ(臨床心理学)
	学校教育と教員の在り方	現代教員論	研究者: 白石陽一(授業論・教科外教育論)、藤中隆久(生徒指導・臨床心理学) 実務家: 濱平清志(教師教育学)、杉原哲郎(教師教育学)
		学校と地域社会(地域と共にある学校づくり)	研究者: 藤中隆久(生徒指導・臨床心理学) 実務家: 杉原哲郎(教師教育学)、濱平清志(教師教育学) 兼任: 山城千秋(青年教育・社会教育学)
	複合領域(*複合)	特別支援教育実践研	研究者: 高原朗子(臨床心理学・特別支援教育学)

	領域からも2単位以上とること) (選択必修)	究論	実務家：浦野エイミ (臨床心理学) 兼担：菊池哲平(発達臨床心理学・特別支援教育学)、藤原志帆(特別支援教育・音楽療法)、秋月百合(健康科学・看護学)
		ネット教育コミュニケーション論	研究者：ハツ塚一郎 (集団心理学・組織コミュニケーション論) 実務家：前田康裕 (教育方法学・情報教育)
教育実践研究科目 (10単位) 現場が抱えている問題について共同研究を行う (全員担当)		教育実践研究Ⅰ	専任:全員 兼担：塚本光夫(教科教育学・情報教育)、山本信也(教科教育学・数学教育)、喜久山悟(美術教育学・工芸教育)、坂下玲子(保健体育科教育)、田口浩継(教科教育学・技術科教育)、宮瀬美津子(教科教育学・授業開発・環境教育)、仁野平智明(国語科教育学・授業デザイン論)、藤瀬泰司(教科教育学(社会科),教育課程・授業開発論)、竹中伸夫(社会認識教育学・カリキュラム論)、吉村昇(数学教育学・教育方法学)、山崎浩隆(教科教育学・音楽教育)、瀧川淳(教科教育学・音楽教育)、赤木恭子(教科教育学・美術教育イメージ・メディア教育)、増田仁(家庭科教育学・教育社会学)、長嶺寿宣(英語教授法・応用言語学)、高崎文子(動機づけ・発達心理学)
		教育実践研究Ⅱ	専任:全員 兼担：塚本光夫(教科教育学・情報教育)、山本信也(教科教育学・数学教育)、喜久山悟(美術教育学・工芸教育)、坂下玲子(保健体育科教育)、田口浩継(教科教育学・技術科教育)、宮瀬美津子(教科教育学・授業開発・環境教育)、仁野平智明(国語科教育学・授業デザイン論)、藤瀬泰司(教科教育学(社会科),教育課程・授業開発論)、竹中伸夫(社会認識教育学・カリキュラム論)、吉村昇(数学教育学・教育方法学)、山崎浩隆(教科教育学・音楽教育)、瀧川淳(教科教育学・音楽教育)、赤木恭子(教科教育学・美術教育イメージ・メディア教育)、増田仁(家庭科教育学・教育社会学)、長嶺寿宣(英語教授法・応用言語学)、高崎文子(動機づけ・発達心理学)
		教育実践研究Ⅲ	専任:全員 兼担：塚本光夫(教科教育学・情報教育)、山本信也(教科教育学・数学教育)、喜久山悟(美術教育学・工芸教育)、坂下玲子(保健体育科教育)、田口浩継(教科教育学・技術科教育)、宮瀬美津子(教科教育学・授業開発・環境教育)、仁野平智明(国語科教育学・授業デザイン論)、藤瀬泰司(教科教育学(社会科),教育課程・授業開発論)、竹中伸夫(社会認識教育学・カリキュラム論)、吉村昇(数学教育学・教育方法学)、山崎浩隆(教科教育学・音楽教育)、瀧川淳(教科教育学・音楽教育)、赤木恭子(教科教育学・美術教育イメージ・メディア教育)、増田仁(家庭科教育学・教育社会学)、長嶺寿宣(英語教授法・応用言語学)、高崎文子(動機づけ・発達心理学)
専門科目 (16単位)	共通必修領域 (全員担当)	教育研究方法論	専任:全員 兼担：塚本光夫(教科教育学・情報教育)、山本信也(教科教育学・数学教育)、喜久山悟(美術教育学・工芸教育)、坂下玲子(保健体育科教育)、田口浩継(教科教育学・技術科教育)、宮瀬美津子(教科教育学・授業開発・環境教育)、仁野平智明(国語科教育学・授業デザイン論)、藤瀬泰司(教科教育学(社会科),教育課程・授業開発論)、竹中伸夫(社会認識教育学・カリキュラム論)、吉村昇(数学教育学・教育方法学)、山崎浩隆(教科教育学・音楽教育)、瀧川淳(教科教育学・音楽教育)、赤木恭子(教科教育学・美術教育イメージ・メディア教育)、増田仁(家庭科教育学・教育社会学)、長嶺寿宣(英語教授法・応用言語学)、高崎文子(動機づけ・発達心理学)

重点3領域＊領域毎に核になるものを6単位必ずとり、残りを他領域から各2単位ずつ4単位とること		実践課題研究	専任: 全員 兼担: 塚本光夫(教科教育学・情報教育)、山本信也(教科教育学・数学教育)、喜久山悟(美術教育学・工芸教育)、坂下玲子(保健体育科教育)、田口浩継(教科教育学・技術科教育)、宮瀬美津子(教科教育学・授業開発・環境教育)、仁野平智明(国語科教育学・授業デザイン論)、藤瀬泰司(教科教育学(社会科)、教育課程・授業開発論)、竹中伸夫(社会認識教育学・カリキュラム論)、吉村昇(数学教育学・教育方法学)、山崎浩隆(教科教育学・音楽教育)、瀧川淳(教科教育学・音楽教育)、赤木恭子(教科教育学・美術教育イメージ・メディア教育)、増田仁(家庭科教育学・教育社会学)、長嶺寿宣(英語教授法・応用言語学)、高崎文子(動機づけ・発達心理学)
	授業実践開発	学習科学・授業研究方法と授業開発・実践研究	研究者: 中山玄三(教育課程・授業開発)、白石陽一(授業論・教科外教育論) 実務家: 前田康裕(教育方法学・情報教育)、宮脇真一(教育方法学・数学教育) 兼担: 塚本光夫(教科教育学・情報教育)、山本信也(教科教育学・数学教育)
		小学校英語活動の授業開発・実践研究	研究者: ピダーソン・クレランス(応用言語学・英語教育)、中山玄三(教育課程・授業開発) 実務家: 宮脇真一(教育方法学・数学教育)、前田康裕(教育方法学・情報教育) 兼担: 長嶺寿宣(英語教授法・応用言語学)
		「豊かな心」を育む授業実践の開発	研究者: 白石陽一(授業論・教科外教育論)、中山玄三(教育課程・授業開発)、 実務家: 杉原哲郎(教師教育学)、濱平清志(教師教育学)
	生徒指導・教育相談	生徒指導問題解決方法(Ⅰ)	研究者: 藤中隆久(生徒指導・臨床心理学)、白石陽一(授業論・教科外教育論) 実務家: 杉原哲郎(教師教育学)、濱平清志(教師教育学)
		生徒指導問題解決方法(Ⅱ)	研究者: 白石陽一(授業論・教科外教育論)、藤中隆久(生徒指導・臨床心理学) 実務家: 杉原哲郎(教師教育学)、濱平清志(教師教育学)
		道德教育と生徒指導	研究者: 白石陽一(授業論・教科外教育論)、藤中隆久(生徒指導・臨床心理学) 実務家: 杉原哲郎(教師教育学)、濱平清志(教師教育学) 兼担: 今井伸和(道德教育)
	学級経営・学校経営	学校と家庭・地域の連携構築	研究者: 岩永定(教育経営学・教育行政)、高原朗子(臨床心理学・特別支援教育学) 実務家: 長濱茂喜(教育経営学)、太田恭司(教育経営学) 兼担: 藤井美保(教育社会学・家族支援・多文化教育)
		学校の危機管理の理論と実践	実務家: 長濱茂喜(教育経営学)、太田恭司(教育経営学) 研究者: 八ッ塚一郎(集団心理学・組織コミュニケーション論)、吉田道雄(集団力学・学校組織経営学)
		教育コミュニケーションデザイン特論	研究者: 八ッ塚一郎(集団心理学・組織コミュニケーション論)、高原朗子(臨床心理学・特別支援教育学)、吉田道雄(集団力学・学校組織経営学) 実務家: 浦野エイミ(臨床心理学)

参考資料 7 教職大学院教員の学部、大学院担当科目一覧

表 3 教職大学院教員の学部、大学院担当科目一覧（＊印は臨床心理士資格取得コース科目）

担当者	分類	単位	講義名
藤中 隆久 (12.9単位)	教育	2	学校心理学
	教育	2	生徒指導の心理学
	教育	2	臨床心理学演習
	教育	0.4	生活A組と生活B組
	教育	1	心理学実験Ⅰ
	院	2	＊臨床心理士査定演習Ⅰ
	院	0.5	＊臨床心理基礎実習
	院	1	＊臨床心理実習
	院	2	＊臨床心理査定演習Ⅱ
岩永 定 (15単位)	教育	2	学校経営学
	教育	2	教育制度
	教育	2	教育制度演習Ⅰ
	教育	1	教育法学（隔年開講）
	教育	2	現代教師論
	教育	2	教育制度特殊講義Ⅱ
	教育	2	学校経営特論
高原 朗子 (8.5単位)	教育	1	知的障害児心理学（分担）
	教育	2	教育相談イ組
	院	2	＊臨床心理学特論Ⅰ
	院	1	＊臨床心理学研究法特論（隔年開講）
	院	0.5	＊臨床心理基礎実習（4名で分担）
	院	2	＊臨床心理学特論Ⅱ
中山 玄三 (6単位)	教育	2	環境教育論（3年次）
	教育	2	環境保全論（2年次）
	教育	2	教育実践研究指導法演習
ピダーソン・クレランス (6単位)	共通	1	教養英語
	教育	2	教育学部英作文Ⅰ
	共通	1	教養英語
	教育	2	教育学部英会話Ⅱ
白石 陽一 (11単位)	教育	2	教育学概論
	教育	2	教育課程基礎論
	教育	1	授業論（隔年開講）
	教育	2	教育課程
	教育	2	教育方法学特殊講義
	院	2	教育実践原論
八ツ塚 一郎	教育	2	教育心理学

(13.5 単位)	教育	2	教育集団心理学
	教育	2	教育心理学演習
	教育	0.5	心理学実験 (分担)
	教育	1	教育心理学特殊講義 (隔年開講)
	教育	1	心理学史 (隔年開講)
	院	1	* 教育集団心理学特論Ⅰ (隔年開講)
	院	1	* 教育集団心理学特論Ⅱ (隔年開講)
	院	1	* 授業実践研究 (隔年開講)
	院	1	* 教育集団心理学特論演習Ⅰ (隔年開講)
	院	1	* 教育集団心理学特論演習Ⅱ (隔年開講)
吉田 道雄 (8 単位)	教育	2	教育情報科学
	院	2	学校保健管理学特論
	院	2	学校保健管理学特論演習
	院	2	教育リーダーシップ原論
合計 78.9 単位			

参考資料 8 時間割

表 4-1 1 年前期授業時間割（案）

	月	火	水	木	金
1. 8:40～10:10		1 年：学校教育と集団心理療法	1 年：教育実践研究Ⅰ		
2. 10:20～11:50		1 年：生徒指導実践論	1 年：教育実践研究Ⅰ		1 年：教育相談実践論
3. 12:50～14:20	1 年：学級経営の実践と課題	1 年：「21 世紀型能力（確かな学力）」を育成するカリキュラム・デザイン		1 年：現代教員論	
4. 14:30～16:00	1 年：「21 世紀型能力（確かな学力）」を育成する協働的な学びの授業デザイン			1 年：小学校英語活動の授業デザイン	
5. 16:10～17:40					
6. 17:50～19:20					

表 4-2 1 年後期授業時間割（案）

	月	火	水	木	金
1. 8:40～10:10	1 年：学校と地域社会（地域と共にある学校づくり）		1 年：教育実践研究Ⅰ		
2. 10:20～11:50	1 年：学校の危機管理の理論と実践	1 年：生徒指導問題解決方法（Ⅱ）	1 年：教育実践研究Ⅰ	1 年：小学校英語活動の授業開発・実践研究	1 年：生徒指導問題解決方法（Ⅰ）
3. 12:50～14:20		1 年：学校カリキュラム・授業の改善を図るためのマネジメント		1 年：学校マネジメントと学校改善	
4. 14:30～16:00		1 年：学習科学・授業研究方法と授業開発・実践研究		1 年：学校と家庭・地域の連携構築	
5. 16:10～17:40					
6. 17:50～19:20					
集中講義 1 年後期～2 年前期		・ 特別支援教育実践研究論 ・ ネット教育コミュニケーション論 ・ ICT 教育実践論			
集中的実践研究		・ 教育実践研究Ⅰ：1 年 4～3 月中			

表 4-3 2 年前期授業時間割 (案)

	月	火	水	木	金
1. 8:40～10:10	2 年：教育コミュニケーションデザイン特論		2 年：教育実践研究Ⅱ	2 年：道德教育と生徒指導	
2. 10:20～11:50			2 年：教育実践研究Ⅱ		
3. 12:50～14:20					
4. 14:30～16:00		2 年：「豊かな心」を育む授業実践の開発			
5. 16:10～17:40		2 年：教育研究方法論			2 年：実践課題研究
6. 17:50～19:20					
集中講義 1 年後期～2 年前期		・特別支援教育実践研究論 ・ネット教育コミュニケーション論 ・ICT 教育実践論			
集中的実践研究		・教育実践研究Ⅱ：2 年前期 4 月～9 月中			

表 4-4 2 年後期授業時間割 (案)

	月	火	水	木	金
1. 8:40～10:10					
2. 10:20～11:50					
3. 12:50～14:20			2 年：教育実践研究Ⅲ		
4. 14:30～16:00					
5. 16:10～17:40					2 年：実践課題研究
6. 17:50～19:20					
集中講義 1 年後期～2 年前期		・特別支援教育実践研究論 ・ネット教育コミュニケーション論 ・ICT 教育実践論			
集中的実践研究		・教育実践研究Ⅲ：2 年後期 10 月～2 月中			

参考資料 9 各専任教員の時間割

1 藤中隆久 前期授業時間割〔案〕

(黒字は教職大学院 1 年生開講科目、青字は教職大学院 2 年生開講科目、茶色は学部開講、緑色は教育学研究科開講)

	月	火	水	木	金
1. 8:40～10:10	臨床心理士査定演習Ⅰ(大学院)		1 年: 教育実践研究Ⅰ 2 年: 教育実践研究Ⅱ	2 年: 道徳教育と生徒指導	
2. 10:20～11:50	学校心理学(学部 1 年)	1 年: 生徒指導実践論	1 年: 教育実践研究Ⅰ 2 年: 教育実践研究Ⅱ	臨床心理学演習(学部 2 年)	1 年: 教育相談実践論
3. 12:50～14:20	生活科 A・B 組〔各 3 回〕(学部 1 年)		生徒指導の心理学(学部 2 年)	1 年: 現代教員論	
4. 14:30～16:00		心理学実験Ⅰ〔分担〕(学部 2 年)		臨床心理実習(大学院) 分担	臨床心理基礎実習(大学院) 分担
5. 16:10～17:40		2 年: 教育研究方法論			2 年: 実践課題研究
6. 17:50～19:20					
集中的実践研究		・教育実践研究Ⅱ: 2 年前期 4 月～9 月中			

1 藤中隆久 後期授業時間割〔案〕

	月	火	水	木	金
1. 8:40～10:10	1 年: 学校と地域社会(地域と共にある学校づくり)		1 年: 教育実践研究Ⅰ		
2. 10:20～11:50		1 年: 生徒指導問題解決方法(Ⅱ)	1 年: 教育実践研究Ⅰ		1 年: 生徒指導問題解決方法(Ⅰ)
3. 12:50～14:20		臨床心理査定演習Ⅱ(大学院)	V		
4. 14:30～16:00					
5. 16:10～17:40					2 年: 実践課題研究
6. 17:50～19:20					
集中的実践研究		・教育実践研究Ⅰ: 1 年 4～9 月～3 月中 ・教育実践研究Ⅲ: 2 年 10 月～2 月中			

2 岩永定 前期授業時間割〔案〕

(黒字は教職大学院 1 年生開講科目、青字は教職大学院 2 年生開講科目、茶色は学部開講、緑色は教育学研究科開講)

	月	火	水	木	金
1. 8:40～10:10		学校経営学(学部 3 年)	1 年: 教育実践研究Ⅰ 2 年: 教育実践研究Ⅱ		
2. 10:20～11:50			1 年: 教育実践研究Ⅰ 2 年: 教育実践研究Ⅱ		
3. 12:50～14:20				教育制度(学部 2 年)	学校経営特論(大学院)
4. 14:30～16:00				教育制度演習Ⅰ(学部 3 年)	教育法学(学部 3 年)

5. 16:10～17:40		2年：教育研究方法論			2年：実践課題研究
6. 17:50～19:20					
集中的実践研究		・教育実践研究Ⅱ：2年前期4月～9月中			

2 岩永定 後期授業時間割〔案〕

	月	火	水	木	金
1. 8:40～10:10			1年：教育実践研究Ⅰ		
2. 10:20～11:50	現代教師論 (学部1年)		1年：教育実践研究Ⅰ		
3. 12:50～14:20			2年：教育実践研究Ⅲ	1年：学校マネジメント と学校改善	学校経営特論 (大学院)
4. 14:30～16:00				1年：学校と家庭・地域 の連携構築	教育制度特殊講義Ⅱ (学部3年)
5. 16:10～17:40					2年：実践課題研究
6. 17:50～19:20					
集中的実践研究		・教育実践研究Ⅰ：1年4～3月中 ・教育実践研究Ⅲ：2年後期10月～2月中			

3 高原朗子 前期授業時間割〔案〕（黒字は教職大学院1年生開講科目、青字は教職大学院2年生開講科目、茶色は学部開講、緑色は教育学研究科開講、紫字は教職大学院集中講義）

	月	火	水	木	金
1. 8:40～10:10	2年：教育コミュニケーションデザイン特論	1年：学校教育と集団心理療法	1年：教育実践研究Ⅰ 2年：教育実践研究Ⅱ		臨床心理学特論Ⅰ (大学院)
2. 10:20～11:50			1年：教育実践研究Ⅰ 2年：教育実践研究Ⅱ		臨床心理学研究法特論 (大学院)
3. 12:50～14:20					
4. 14:30～16:00					臨床心理学基礎実習 (大学院)
5. 16:10～17:40		2年：教育研究方法論			2年：実践課題研究
6. 17:50～19:20					
集中講義1年後期～2年前期		・特別支援教育実践研究論			
集中的実践研究		・教育実践研究Ⅱ：2年前期4月～9月中			

3 高原朗子 後期授業時間割〔案〕

	月	火	水	木	金
1. 8:40～10:10		教育相談イ組（学部2年）	1年：教育実践研究Ⅰ		臨床心理学特論Ⅱ (大学院)
2. 10:20～11:50		知的障害児心理学概論〔分担〕 (学部1年)	1年：教育実践研究Ⅰ		
3. 12:50～14:20			2年：教育実践研究Ⅲ		
4. 14:30～16:00				1年：学校と家庭・ 地域の連携構築	
5. 16:10～17:40					2年： 実践課題研究

6. 17:50～19:20					
集中的実践研究		・教育実践研究Ⅰ：1年4～3月中 ・教育実践研究Ⅲ：2年後期10月～2月中			

4 中山玄三 前期授業時間割〔案〕

（黒字は教職大学院1年生開講科目、青字は教職大学院2年生開講科目、茶色は学部開講）

	月	火	水	木	金
1. 8:40～10:10			1年：教育実践研究Ⅰ 2年：教育実践研究Ⅱ		
2. 10:20～11:50			1年：教育実践研究Ⅰ 2年：教育実践研究Ⅱ	環境教育 論（学部3年）	
3. 12:50～14:20		1年：「21世紀型能力（確かな学力）」を育成するカリキュラム・デザイン			
4. 14:30～16:00	1年：「21世紀型能力（確かな学力）」を育成する協働的な学びの授業デザイン	2年：「豊かな心」を育む授業実践の開発		1年：小学校英語活動の授業デザイン	
5. 16:10～17:40		2年：教育研究方法論			2年：実践課題研究
6. 17:50～19:20					
集中的実践研究		・教育実践研究Ⅱ：2年前期4月～9月中			

4 中山玄三 後期授業時間割〔案〕

	月	火	水	木	金
1. 8:40～10:10			1年：教育実践研究Ⅰ		
2. 10:20～11:50			1年：教育実践研究Ⅰ	1年：小学校英語活動の授業開発・実践研究	
3. 12:50～14:20		1年：学校カリキュラム・授業の改善を図るためのマネジメント	2年：教育実践研究Ⅲ		
4. 14:30～16:00		1年：学習科学・授業研究方法と授業開発・実践研究			環境保全論（学部2年）
5. 16:10～17:40					2年：実践課題研究
6. 17:50～19:20			教育実践研究指導法演習（学部2～4年）		
集中的実践研究		・教育実践研究Ⅰ：1年4～3月中 ・教育実践研究Ⅲ：2年後期10月～2月中			

5 ピダーソン・クレランス 前期授業時間割〔案〕

(黒字は教職大学院1年生開講科目、青字は教職大学院2年生開講科目、茶色は学部開講、黄色は教養開講)

	月	火	水	木	金
1. 8:40～10:10			1年：教育実践研究Ⅰ 2年：教育実践研究Ⅱ		教養英語 (1年)
2. 10:20～11:50			1年：教育実践研究Ⅰ 2年：教育実践研究Ⅱ		
3. 12:50～14:20		1年：「21世紀型能力(確かな学力)」を育成するカリキュラム・デザイン	英作文Ⅰ(教育学部2年)		
4. 14:30～16:00	1年：「21世紀型能力(確かな学力)」を育成する協働的な学びの授業デザイン			1年：小学校英語活動の授業デザイン	
5. 16:10～17:40		2年：教育研究方法論			2年：実践課題研究
6. 17:50～19:20					
集中的実践研究		・教育実践研究Ⅱ：2年前期4月～9月中			

5 ピダーソン・クレランス 後期授業時間割〔案〕

	月	火	水	木	金
1. 8:40～10:10			1年：教育実践研究Ⅰ		教養英語 (1年)
2. 10:20～11:50			1年：教育実践研究Ⅰ	1年：小学校英語活動の授業開発・実践研究	
3. 12:50～14:20		1年：学校カリキュラム・授業の改善を図るためのマネジメント	2年：教育実践研究Ⅲ		
4. 14:30～16:00					英会話Ⅱ(教育学部2年)
5. 16:10～17:40					2年：実践課題研究
6. 17:50～19:20					
集中的実践研究		・教育実践研究Ⅰ：1年4～3月中 ・教育実践研究Ⅲ：2年後期10月～2月中			

6 白石陽一 前期授業時間割〔案〕

(黒字は教職大学院1年生開講科目、青字は教職大学院2年生開講科目、茶色は学部開講、緑色は教育学研究科開講)

	月	火	水	木	金
1. 8:40～10:10			1年：教育実践研究Ⅰ 2年：教育実践研究Ⅱ	2年：道徳教育と生徒指導	
2. 10:20～11:50	教育実践原論(大学院)	1年：生徒指導実践論	1年：教育実践研究Ⅰ 2年：教育実践研究Ⅱ		1年：教育相談実践論
3. 12:50～14:20		教育課程(学部2年)	教育学概論	1年：現代教員論	教育方法学特殊講義

			(学部 1 年)		(学部 3 年)
4. 14:30～16:00		2 年:「豊かな心」を育む授業実践の開発			
5. 16:10～17:40		2 年: 教育研究方法論			2 年: 実践課題研究
6. 17:50～19:20					
集中的実践研究		・教育実践研究Ⅱ: 2 年前期 4 月～9 月中			

6 白石陽一 後期授業時間割〔案〕

	月	火	水	木	金
1. 8:40～10:10			1 年: 教育実践研究Ⅰ		授業論 (学部 3 年)
2. 10:20～11:50		1 年: 生徒指導問題解決方法(Ⅱ)	1 年: 教育実践研究Ⅰ		1 年: 生徒指導問題解決方法(Ⅰ)
3. 12:50～14:20		1 年: 学校カリキュラム・授業の改善を図るためのマネジメント	2 年: 教育実践研究Ⅲ	教育課程基礎論 (学部 2 年)	
4. 14:30～16:00		1 年: 学習科学・授業研究方法と授業開発・実践研究			
5. 16:10～17:40					2 年: 実践課題研究
6. 17:50～19:20					
集中的実践研究		・教育実践研究Ⅰ: 1 年 4～3 月中 ・教育実践研究Ⅲ: 2 年後期 10 月～2 月中			

7 ハツ塚一郎 前期授業時間割〔案〕 (黒字は教職大学院 1 年生開講科目、青字は教職大学院 2 年生開講科目、茶色は学部開講、緑色は教育学研究科開講、紫は教職大学院集中講義)

	月	火	水	木	金
1. 8:40～10:10	2 年: 教育コミュニケーションデザイン特論	1 年: 学校教育と集団心理療法	1 年: 教育実践研究Ⅰ 2 年: 教育実践研究Ⅱ	教育集団心理学特論演習Ⅰ(大学院)	
2. 10:20～11:50	教育心理学(学部 1 年)		1 年: 教育実践研究Ⅰ 2 年: 教育実践研究Ⅱ		
3. 12:50～14:20	1 年: 学級経営の実践と課題	教育心理学特殊講義(学部 3 年)			
4. 14:30～16:00		教育心理学演習(学部 2 年)			
5. 16:10～17:40		2 年: 教育研究方法論			2 年: 実践課題研究
6. 17:50～19:20					
集中講義 1 年後期～2 年前期		・ネット教育コミュニケーション論			
集中的実践研究		・教育実践研究Ⅱ: 2 年前期 4 月～9 月中			

7 ハツ塚一郎 後期授業時間割〔案〕

	月	火	水	木	金
1. 8:40～10:10			1 年: 教育実践研究Ⅰ	教育集団心理学特論演習Ⅱ(大学院)	

2. 10:20～11:50	1年：学校の危機 管理の理論と実 践		1年：教育実践研 究Ⅰ		
3. 12:50～14:20		教育集団心理学 (学部3年)	2年：教育実践研 究Ⅲ	心理学史(学部3年)	授業実践研究 (大学院)
4. 14:30～16:00					
5. 16:10～17:40		心理学実験 (学部2年)			2年： 実践課題研究
6. 17:50～19:20					
集中講義 1年後期～2年前期		・ネット教育コミュニケーション論			
集中的実践研究		・教育実践研究Ⅰ：1年4～3月中 ・教育実践研究Ⅲ：2年後期10月～2月中			

8 吉田道雄 前期授業時間割〔案〕

(黒字は教職大学院1年生開講科目、青字は教職大学院2年生開講科目、茶色は学部開講、緑色は教育学研究科開講)

	月	火	水	木	金
1. 8:40～10:10	2年：教育コミュニケ ーションデザイン特 論	1年：学校教育と集 団心理療法	1年：教育実践研究Ⅰ 2年：教育実践研究Ⅱ		
2. 10:20～11:50	学校保健管理学特論 演習(大学院)	教育リーダーシッ プ原論(大学院)	1年：教育実践研究Ⅰ 2年：教育実践研究Ⅱ		
3. 12:50～14:20	1年：学級経営の実践 と課題				
4. 14:30～16:00					
5. 16:10～17:40		2年：教育研究方法 論			2年：実践課題研 究
6. 17:50～19:20					
集中的実践研究		・教育実践研究Ⅱ：2年前期4月～9月中			

8 吉田道雄 後期授業時間割〔案〕

	月	火	水	木	金
1. 8:40～10:10	学校保健管理学特 論(大学院)		1年：教育実践研究Ⅰ		
2. 10:20～11:50	1年：学校の危機 管理の理論と実践		1年：教育実践研究Ⅰ		
3. 12:50～14:20			2年：教育実践研究Ⅲ	1年：学校マネジメ ントと学校改善	
4. 14:30～16:00					
5. 16:10～17:40					2年：実践課題研究
6. 17:50～19:20	教育情報科学 (学部3年)				
集中的実践研究		・教育実践研究Ⅰ：1年4～3月中 ・教育実践研究Ⅲ：2年後期10月～2月中			

9 浦野エイミ 前期授業時間割〔案〕

(黒字は教職大学院1年生開講科目、青字は教職大学院2年生開講科目、茶色は学部開講、紫は教職大学院集中講義)

	月	火	水	木	金
1. 8:40～10:10	2年：教育コミュニケーションデザイン特論	1年：学校教育と集団心理療法	1年：教育実践研究Ⅰ 2年：教育実践研究Ⅱ		
2. 10:20～11:50		知的障害児心理学概論〔分担〕(学部1年)	1年：教育実践研究Ⅰ 2年：教育実践研究Ⅱ		
3. 12:50～14:20					
4. 14:30～16:00					
5. 16:10～17:40		2年：教育研究方法論			2年：実践課題研究
6. 17:50～19:20					
集中講義 1年後期～2年前期		・特別支援教育実践研究論			
集中的実践研究		・教育実践研究Ⅱ：2年前期4月～9月中			

9 浦野エイミ 後期授業時間割〔案〕

	月	火	水	木	金
1. 8:40～10:10			1年：教育実践研究Ⅰ		
2. 10:20～11:50			1年：教育実践研究Ⅰ		
3. 12:50～14:20			2年：教育実践研究Ⅲ		
4. 14:30～16:00					
5. 16:10～17:40					2年：実践課題研究
6. 17:50～19:20					
集中講義 1年後期～2年前期		・特別支援教育実践研究論			
集中的実践研究		・教育実践研究Ⅰ：1年4～3月中 ・教育実践研究Ⅲ：2年後期10月～2月中			

10 長濱茂喜 前期授業時間割〔案〕(黒字は教職大学院1年生開講科目、青字は教職大学院2年生開講科目)

	月	火	水	木	金
1. 8:40～10:10			1年：教育実践研究Ⅰ 2年：教育実践研究Ⅱ		
2. 10:20～11:50			1年：教育実践研究Ⅰ 2年：教育実践研究Ⅱ		
3. 12:50～14:20	1年：学級経営の実践と課題				
4. 14:30～16:00					
5. 16:10～17:40		2年：教育研究方法論			2年：実践課題研究
6. 17:50～19:20					
集中的実践研究		・教育実践研究Ⅱ：2年前期4月～9月中			

10 長濱茂喜 後期授業時間割〔案〕

	月	火	水	木	金
1. 8:40～10:10			1年：教育実践研究Ⅰ		

2. 10:20～11:50	1年：学校の危機管理の理論と実践		1年：教育実践研究Ⅰ		
3. 12:50～14:20			2年：教育実践研究Ⅲ	1年：学校マネジメントと学校改善	
4. 14:30～16:00				1年：学校と家庭・地域の連携構築	
5. 16:10～17:40					2年：実践課題研究
6. 17:50～19:20					
集中的実践研究		・教育実践研究Ⅰ：1年4～3月中 ・教育実践研究Ⅲ：2年後期10月～2月中			

11 太田恭司 前期授業時間割〔案〕（黒字は教職大学院1年生開講科目、青字は教職大学院2年生開講科目）

	月	火	水	木	金
1. 8:40～10:10			1年：教育実践研究Ⅰ 2年：教育実践研究Ⅱ		
2. 10:20～11:50			1年：教育実践研究Ⅰ 2年：教育実践研究Ⅱ		
3. 12:50～14:20	1年：学級経営の実践と課題				
4. 14:30～16:00					
5. 16:10～17:40		2年：教育研究方法論			2年：実践課題研究
6. 17:50～19:20					
集中的実践研究		・教育実践研究Ⅱ：2年前期4月～9月中			

11 太田恭司 後期授業時間割〔案〕

	月	火	水	木	金
1. 8:40～10:10			1年：教育実践研究Ⅰ		
2. 10:20～11:50	1年：学校の危機管理の理論と実践		1年：教育実践研究Ⅰ		
3. 12:50～14:20			2年：教育実践研究Ⅲ	1年：学校マネジメントと学校改善	
4. 14:30～16:00				1年：学校と家庭・地域の連携構築	
5. 16:10～17:40					2年：実践課題研究
6. 17:50～19:20					
集中的実践研究		・教育実践研究Ⅰ：1年4～3月中 ・教育実践研究Ⅲ：2年後期10月～2月中			

12 杉原哲郎 前期授業時間割〔案〕（黒字は教職大学院1年生開講科目、青字は教職大学院2年生開講科目）

	月	火	水	木	金
1. 8:40～10:10			1年：教育実践研究Ⅰ 2年：教育実践研究Ⅱ	2年：道徳教育と生徒指導	

2. 10:20～11:50		1年：生徒指導実践論	1年：教育実践研究Ⅰ 2年：教育実践研究Ⅱ		1年：教育相談実践論
3. 12:50～14:20				1年：現代教員論	
4. 14:30～16:00		2年：「豊かな心」を育む授業実践の開発			
5. 16:10～17:40		2年：教育研究方法論			2年：実践課題研究
6. 17:50～19:20					
集中的実践研究		・教育実践研究Ⅱ：2年前期4月～9月中			

12 杉原哲郎 後期授業時間割〔案〕

	月	火	水	木	金
1. 8:40～10:10	1年：学校と地域社会（地域と共にある学校づくり）		1年：教育実践研究Ⅰ		
2. 10:20～11:50		1年：生徒指導問題解決方法（Ⅱ）	1年：教育実践研究Ⅰ		1年：生徒指導問題解決方法（Ⅰ）
3. 12:50～14:20			2年：教育実践研究Ⅲ		
4. 14:30～16:00					
5. 16:10～17:40					2年：実践課題研究
6. 17:50～19:20					
集中的実践研究		・教育実践研究Ⅰ：1年4～3月中 ・教育実践研究Ⅲ：2年後期10月～2月中			

13 濱平清志 前期授業時間割〔案〕（黒字は教職大学院1年生開講科目、青字は教職大学院2年生開講科目）

	月	火	水	木	金
1. 8:40～10:10			1年：教育実践研究Ⅰ 2年：教育実践研究Ⅱ	2年：道德教育と生徒指導	
2. 10:20～11:50		1年：生徒指導実践論	1年：教育実践研究Ⅰ 2年：教育実践研究Ⅱ		1年：教育相談実践論
3. 12:50～14:20				1年：現代教員論	
4. 14:30～16:00		2年：「豊かな心」を育む授業実践の開発			
5. 16:10～17:40		2年：教育研究方法論			2年：実践課題研究
6. 17:50～19:20					
集中的実践研究		・教育実践研究Ⅱ：2年前期4月～9月中			

13 濱平清志 後期授業時間割〔案〕

	月	火	水	木	金
1. 8:40～10:10	1年：学校と地域社会（地域と共にある学校づくり）		1年：教育実践研究Ⅰ		
2. 10:20～11:50		1年：生徒指導問題解決方法（Ⅱ）	1年：教育実践研究Ⅰ		1年：生徒指導問題解決方法（Ⅰ）
3. 12:50～14:20			2年：教育実践研究Ⅲ		
4. 14:30～16:00					

5. 16:10～17:40					2年：実践課題研究
6. 17:50～19:20					
集中的実践研究		・教育実践研究Ⅰ：1年4～3月中 ・教育実践研究Ⅲ：2年後期10月～2月中			

14 宮脇真一 前期授業時間割〔案〕（黒字は教職大学院1年生開講科目、青字は教職大学院2年生開講科目）

	月	火	水	木	金
1. 8:40～10:10			1年：教育実践研究Ⅰ 2年：教育実践研究Ⅱ		
2. 10:20～11:50			1年：教育実践研究Ⅰ 2年：教育実践研究Ⅱ		
3. 12:50～14:20		1年：「21世紀型能力（確かな学力）」を育成するカリキュラム・デザイン			
4. 14:30～16:00	1年：「21世紀型能力（確かな学力）」を育成する協働的な学びの授業デザイン			1年：小学校英語活動の授業デザイン	
5. 16:10～17:40		2年：教育研究方法論			2年：実践課題研究
6. 17:50～19:20					
集中的実践研究		・教育実践研究Ⅱ：2年前期4月～9月中			

14 宮脇真一 後期授業時間割〔案〕

	月	火	水	木	金
1. 8:40～10:10			1年：教育実践研究Ⅰ		
2. 10:20～11:50			1年：教育実践研究Ⅰ	1年：小学校英語活動の授業開発・実践研究	
3. 12:50～14:20		1年：学校カリキュラム・授業の改善を図るためのマネジメント	2年：教育実践研究Ⅲ		
4. 14:30～16:00		1年：学習科学・授業研究方法と授業開発・実践研究			
5. 16:10～17:40					2年：実践課題研究
6. 17:50～19:20					
集中的実践研究		・教育実践研究Ⅰ：1年4～3月中 ・教育実践研究Ⅲ：2年後期10月～2月中			

15 前田康裕 前期授業時間割〔案〕

（黒字は教職大学院1年生開講科目、青字は教職大学院2年生開講科目、紫は教職大学院集中講義）

	月	火	水	木	金
1. 8:40～10:10			1年：教育実践研究Ⅰ 2年：教育実践研究Ⅱ		

2. 10:20～11:50			1年：教育実践研究Ⅰ 2年：教育実践研究Ⅱ		
3. 12:50～14:20		1年：「21世紀型能力 (確かな学力)」を育成 するカリキュラム・デ ザイン			
4. 14:30～16:00	1年：「21世紀型能力(確 かな学力)」を育成する協 働的な学びの授業デザイ ン			1年：小学校 英語活動の 授業デザイ ン	
5. 16:10～17:40		2年：教育研究方法論			2年：実践課題研究
6. 17:50～19:20					
集中講義 1年後期～2年前期		・ネット教育コミュニケーション論 ・ICT教育実践論			
集中的実践研究		・教育実践研究Ⅱ：2年前期4月～9月中			

15 前田康裕 後期授業時間割〔案〕

	月	火	水	木	金
1. 8:40～10:10			1年：教育実践研究Ⅰ		
2. 10:20～11:50			1年：教育実践研究Ⅰ	1年：小学校英語活動 の授業開発・実践研究	
3. 12:50～14:20		1年：学校カリキュラ ム・授業の改善を図るた めのマネジメント	2年：教育実践研究Ⅲ		
4. 14:30～16:00		1年：学習科学・授業研 究会方法と授業開発			
5. 16:10～17:40					2年：実践課題研究
6. 17:50～19:20					
集中講義 1年後期～2年前期		・ネット教育コミュニケーション論 ・ICT教育実践論			
集中的実践研究		・教育実践研究Ⅰ：1年4～3月中 ・教育実践研究Ⅲ：2年後期10月～2月中			

参考資料 10 履修モデル

①「授業実践開発」領域の学部新卒学生 A の履修モデル

「授業実践開発」領域の学部新卒学生 A は将来小学校の教員として即戦力として活躍したいと考えている学部新卒学生で「授業実践開発」の領域を核として学びつつ、道德教育と生徒指導、ネット教育コミュニケーション論、ICT 教育、教育コミュニケーションデザイン特論などに関心をもち、力量形成をしている学生である。A の履修モデルは表 5-1 である。

表 5-1 「授業実践開発」領域の学部新卒学生 A の履修モデル

(●印は A が履修する科目、②は 2 単位で必修科目、丸印なしは選択科目、48 単位修得)

	領 域		授 業 科 目	単 位		1 年次		2 年次	
				必修	選択	前期	後期	前期	後期
共通科目 (22単位)	共通5領域 (20単位以上とること) (選択必修)	教育課程の編成・実施	「21世紀型能力(確かな学力)」を育成するカリキュラム・デザイン	②		●2			
			学校カリキュラム・授業の改善を図るためのマネジメント	②			●2		
		実践的な指導方法	「21世紀型能力(確かな学力)」を育成する協働的な学びの授業デザイン	②		●2			
			小学校英語活動の授業デザイン	選択必修2	2	●2			
			ICT教育実践論		2		集中2		
		生徒指導・教育相談	生徒指導実践論	②		●2			
			教育相談実践論	②		●2			
		学級経営・学校経営(注1)	学級経営の実践と課題	選択必修4	2	●2			
			学校マネジメントと学校改善		2		2		
			学校教育と集団心理療法		2	●2			
		学校教育と教員の在り方	現代教員論	②		●2			
			学校と地域社会(地域と共にある学校づくり)	②			●2		
	複合領域(*複合領域からも2単位以上とること)(注2)	特別支援教育実践研究論	選択必修2	2		集中2			
		ネット教育コミュニケーション論		2		集中●2			
	教育実践研究科目(10単位)現場が抱えている問題について共同研究(全員担当)	教育実践研究Ⅰ(注3)		④		●4			
		教育実践研究Ⅱ		④				●4	
		教育実践研究Ⅲ		②					●2
専門科目 (16単位)	専門共通必修領域(全員担当)	教育研究方法論		②				●2	
		実践課題研究		④				●4	
	授業実践開発	学習科学・授業研究方法と授業開発・実践研究		選択必修(6+4)	2		●2		
		小学校英語活動の授業開発・実践研究			2		●2		
		「豊かな心」を育む授業実践の開発			2			●2	
	生徒指導・教育相談	生徒指導問題解決方法(Ⅰ)			2		●2		
		生徒指導問題解決方法(Ⅱ)			2		2		
		道徳教育と生徒指導			2			2	
	学級経営・学校経営	学校と家庭・地域の連携構築			2		2		
		学校の危機管理の理論と実践			2		2		
		教育コミュニケーションデザイン特論			2				●2

注1：現職教員学生は、「学校マネジメントと学校改善」が必修で、「学級経営の実践と課題」と「学校教育と集団心理療法」は選択である。学部新卒学生は、「学級経営の実践と課題」が必修で、「学校マネジメントと学校改善」と「学校教育と集団心理療法」は選択である。

注2：複合領域3科目の中から2単位以上とること（選択必修）。

注3：学部新卒学生は、3領域「授業実践開発」、「生徒指導・教育相談」、「学級経営・学校経営」にそれぞれ対応する内容の「教育実践研究Ⅰ」を計160h履修し、4単位を修得する。現職教員学生は、「教育実践研究Ⅰ」（160h）は自分の選択した領域で行う。

注4：重点3領域は、1つの核となる領域を選択して、その領域の3科目（6単位）を全て履修し、その他の領域から各2単位ずつ計4単位を履修して、10単位以上を修得すること。

②「授業実践開発」領域の現職教員学生Bの履修モデル

「授業実践開発」領域の現職教員学生Bは小学校の現職教員で、「授業実践開発」の領域を核として学びつつ、小学校英語の指導に興味関心を持ち、学校現場に帰ったら、小学校英語指導でリーダー的な役割を果たしたいと考えている人である。ICT教育、道德教育と生徒指導、学校と家庭・地域の連携構築、教育コミュニケーションデザイン特論などにも関心をもつ現職教員学生である。Bの履修モデルは表5-2である。

表5-2 「授業実践開発」領域の現職教員学生Bの履修モデル

（●印はBが履修する科目、②は2単位で必修科目、丸印なしは選択科目、計48単位修得）

領 域			授 業 科 目	単位		1 年次		2 年次	
				必修	選択	前期	後期	前期	後期
共通科目（22単位）	共通5領域（20単位以上とること） （選択必修）	教育課程の編成・実施	「21 世紀型能力（確かな学力）」を育成するカリキュラム・デザイン	②		●2			
			学校カリキュラム・授業の改善を図るためのマネジメント	②			●2		
		実践的な指導方法	「21 世紀型能力（確かな学力）」を育成する協働的な学びの授業デザイン	②		●2			
			小学校英語活動の授業デザイン	②		●2			
			ICT 教育実践論		2		集中●2		
		生徒指導・教育相談	生徒指導実践論	②		●2			
			教育相談実践論	②		●2			
		学級経営・学校経営（注1）	学級経営の実践と課題	選択必修4	2	2			
			学校マネジメントと学校改善		2		●2		
			学校教育と集団心理療法		2	●2			
		学校教育と教員の在り方	現代教員論	②		●2			
			学校と地域社会（地域と共にある学校づくり）	②			●2		
		複合領域（＊複合領域からも2単位以上とること）（選択必修 注2）	特別支援教育実践研究論	2 選択必修	2		集中2		
			ネット教育コミュニケーション論		2		集中2		
	教育実践研究科目（10 単位）現場が抱えている問題について共同研究（全員担当）	教育実践研究Ⅰ（注3）	④			●4			
		教育実践研究Ⅱ	④				●4		
		教育実践研究Ⅲ	②					●2	
5 単 目 （ 1	専門共通必修領域（全員担当）	教育研究方法論	②				●2		
		実践課題研究	④				●4		

重点 3 領域 (注4)	授業実践開発	学習科学・授業研究方法と授業開発・実践研究	選択必修 (6+4)	2		●2		
		小学校英語活動の授業開発・実践研究		2		●2		
		「豊かな心」を育む授業実践の開発		2			●2	
	生徒指導・教育相談	生徒指導問題解決方法（Ⅰ）		2		2		
		生徒指導問題解決方法（Ⅱ）		2		2		
		道徳教育と生徒指導		2			●2	
	学級経営・学校経営	学校と家庭・地域の連携構築		2		●2		
		学校の危機管理の理論と実践		2		2		
		教育コミュニケーションデザイン特論		2			2	

注1：現職教員学生は、「学校マネジメントと学校改善」が必修で、「学級経営の実践と課題」と「学校教育と集団心理療法」は選択である。学部新卒学生は、「学級経営の実践と課題」が必修で、「学校マネジメントと学校改善」と「学校教育と集団心理療法」は選択である。

注2：複合領域3科目の中から2単位以上とること（選択必修）。

注3：学部新卒学生は、3領域「授業実践開発」、「生徒指導・教育相談」、「学級経営・学校経営」にそれぞれ対応する内容の「教育実践研究Ⅰ」を計160h履修し、4単位を修得する。現職教員学生は、「教育実践研究Ⅰ」（160h）は自分の選択した領域で行う。

注4：重点3領域は、1つの核となる領域を選択して、その領域の3科目（6単位）を全て履修し、その他の領域から各2単位ずつ計4単位を履修して、10単位以上を修得すること。

③「生徒指導・教育相談」領域の学部新卒学生Cの履修モデル

「生徒指導・教育相談」領域の学部新卒学生Cは中学校の教員を目指す学部新卒学生で、「生徒指導・生活相談」領域を核として学び、即戦力のある教員を目指している。

表5-3 「生徒指導・教育相談」領域の学部新卒学生Cの履修モデル

（●印はCが履修する科目、②は2単位で必修科目、丸印なしは選択科目、48単位修得）

	領 域	授 業 科 目	単 位		1 年次		2 年次	
			必修	選択	前期	後期	前期	後期
共通科目 (22単位)	共通5領域 (20単位以上とること)	「21世紀型能力（確かな学力）」を育成するカリキュラム・デザイン	②		●2			
		学校カリキュラム・授業の改善を図るためのマネジメント	②			●2		
	実践的な指導方法	「21世紀型能力（確かな学力）」を育成する協働的な学びの授業デザイン	②		●2			
		小学校英語活動の授業デザイン	②		●2			
		ICT教育実践論		2		集中2		
	生徒指導・教育相談	生徒指導実践論	②		●2			
		教育相談実践論	②		●2			
	学級経営・学校経営（注1）	学級経営の実践と課題	選択必修4	2	●2			
		学校マネジメントと学校改善		2		2		
		学校教育と集団心理療法		2	●2			
	学校教育と教員の在り方	現代教員論	②		●2			
		学校と地域社会（地域と共にある学校づくり）	②			●2		
	複合領域（＊複合領域）	特別支援教育実践研究論	必修	2		集中●2		

域からも2単位以上とること（注2）		ネット教育コミュニケーション論		2		集中2	
教育実践研究科目（10単位）現場が抱えている問題について共同研究（全員担当）		教育実践研究Ⅰ（注3）	④		●4		
		教育実践研究Ⅱ	④			●4	
		教育実践研究Ⅲ	②				●2
専門科目（16単位）	専門共通必修領域（全員担当）		教育研究方法論	②			●2
			実践課題研究	④			●4
	重点3領域（注4）	授業実践開発	学習科学・授業研究方法と授業開発・実践研究	選択必修（6+4）	2	2	
			小学校英語活動の授業開発・実践研究		2	2	
			「豊かな心」を育む授業実践の開発				●2
		生徒指導・教育相談	生徒指導問題解決方法（Ⅰ）		2	●2	
			生徒指導問題解決方法（Ⅱ）		2	●2	
			道徳教育と生徒指導		2		●2
		学級経営・学校経営	学校と家庭・地域の連携構築		2	●2	
			学校の危機管理の理論と実践		2	2	
			教育コミュニケーションデザイン特論		2		2

注1：現職教員学生は、「学校マネジメントと学校改善」が必修で、「学級経営の実践と課題」と「学校教育と集団心理療法」は選択である。学部新卒学生は、「学級経営の実践と課題」が必修で、「学校マネジメントと学校改善」と「学校教育と集団心理療法」は選択である。

注2：複合領域3科目の中から2単位以上とること（選択必修）。

注3：学部新卒学生は、3領域「授業実践開発」、「生徒指導・教育相談」、「学級経営・学校経営」にそれぞれ対応する内容の「教育実践研究Ⅰ」を計160h履修し、4単位を修得する。現職教員学生は、「教育実践研究Ⅰ」（160h）は自分の選択した領域で行う。

注4：重点3領域は、1つの核となる領域を選択して、その領域の3科目（6単位）を全て履修し、その他の領域から各2単位ずつ計4単位を履修して、10単位以上を修得すること。

④「生徒指導・教育相談」領域の現職教員学生Dの履修モデル

Dは、現職の中学校教員である。「生徒指導・教育相談」領域を核として学び、生徒指導・教育相談、学校マネジメントと学校改善、学校の危機管理の理論と実践、道徳教育と生徒指導等を修得して、リーダー教員として活躍したいと考えている現職教員学生である。

表5-4 「生徒指導・教育相談」領域の現職教員学生Dの履修モデル

（●印はDの履修科目、②は2単位で必修科目、丸印なしは選択科目、現職教員学生は共通科目「学級経営・学校経営」では「学校マネジメントと学校改善」が必修、計48単位以上修得）

	領域	授業科目	単位		1年次		2年次	
			必修	選択	前期	後期	前期	後期
共通科目（22単位）	共通5領域（20単位以上とること）（選択必修）	「21世紀型能力（確かな学力）」を育成するカリキュラム・デザイン	②		●2			
		学校カリキュラム・授業の改善を図るためのマネジメント	②			●2		
	実践的な指導方法	「21世紀型能力（確かな学力）」を育成する協働的な学びの授業デザイン	②		●2			
		小学校英語活動の授業デザイン	②		●2			
		ICT教育実践論		2			集中2	
	生徒指導・教育相	生徒指導実践論	②		●2			

専 門 科 目 (16単位)	重点3領域(注4)	学級経営・学校経営(注1)	談	教育相談実践論	②		●2			
			学校教育と教員の在り方	学級経営の実践と課題	選択必修4	2	2			
				学校マネジメントと学校改善		2		●2		
				学校教育と集団心理療法		2	●2			
		複合領域(*複合領域からも2単位以上とること)(選択必修 注2)	特別支援教育実践研究論	現代教員論	②		●2			
				学校と地域社会(地域と共にある学校づくり)	②			●2		
	専 門 科 目 (16単位)	教育実践研究科目(10単位)現場が抱えている問題について共同研究(全員担当)	教育実践研究Ⅰ(注3)	ネット教育コミュニケーション論	選択必修	2		集中2		
				教育実践研究Ⅱ		2		集中●2		
				教育実践研究Ⅲ	④			●4		
		専門共通必修領域(全員担当)	教育実践研究Ⅳ	教育実践研究Ⅰ(注3)	④				●4	
				教育実践研究Ⅱ	④				●4	
				教育実践研究Ⅲ	②					●2
		重点3領域(注4)	授業実践開発	教育実践研究Ⅳ	②				●2	
				実践課題研究	④				●4	
				学習科学・授業研究方法と授業開発・実践研究	選択必修(6+4)	2		2		
			生徒指導・教育相談	小学校英語活動の授業開発・実践研究		2		2		
				「豊かな心」を育む授業実践の開発		2			●2	
				生徒指導問題解決方法(Ⅰ)		2		●2		
				生徒指導問題解決方法(Ⅱ)		2		●2		
			学級経営・学校経営	道徳教育と生徒指導		2			●2	
				学校と家庭・地域の連携構築		2		●2		
				学校の危機管理の理論と実践		2		2		
				教育コミュニケーションデザイン特論		2			2	

注1：現職教員学生は、「学校マネジメントと学校改善」が必修で、「学級経営の実践と課題」と「学校教育と集団心理療法」は選択である。学部新卒学生は、「学級経営の実践と課題」が必修で、「学校マネジメントと学校改善」と「学校教育と集団心理療法」は選択である。

注2：複合領域3科目の中から2単位以上とること(選択必修)。

注3：学部新卒学生は、3領域「授業実践開発」、「生徒指導・教育相談」、「学級経営・学校経営」にそれぞれ対応する内容の「教育実践研究Ⅰ」を計160h履修し、4単位を修得する。現職教員学生は、「教育実践研究Ⅰ」(160h)は自分の選択した領域で行う。

注4：重点3領域は、1つの核となる領域を選択して、その領域の3科目(6単位)を全て履修し、その他の領域から各2単位ずつ計4単位を履修して、10単位以上を修得すること。

⑤「学級経営・学校経営」領域の学部新卒学生Eの履修モデル

Eは、「学級経営・学校経営」領域を核として学び、主に学級経営についての力量を身につけて、学校現場で、即戦力のある教員として働きたいと考えている。学級経営に不可欠な授業力や、の学習科学・授業研究方法と授業開発・実践研究、特別支援教育実践研究論、道徳教育と生徒指導、教育コミュニケーションデザイン特論などで力量形成を行っている学部新卒学生である。

表5-5 「学級経営・学校経営」領域の学部新卒学生Eの履修モデル

	領 域	授 業 科 目	単 位		1 年次		2 年次	
			必修	選択	前期	後期	前期	後期
(22単位)	以上とる	「21世紀型能力(確かな学力)」を育成するカリキュラム・デザイン	②		●2			
		学校カリキュラム・授業の改善を図るため	②			●2		

			のマネジメント						
		実践的な指導 方法	「21 世紀型能力（確かな学力）」を育成する協働的な学びの授業デザイン	②		●2			
			小学校英語活動の授業デザイン	②		●2			
		生徒指導・教育 相談	生徒指導実践論	②		●2			
			教育相談実践論	②		●2			
		学級経営・学校 経営（注1）	学級経営の実践と課題	選択必修 4	2	●2			
			学校マネジメントと学校改善		2		2		
			学校教育と集団心理療法		2	●2			
		学校教育と教 員の在り方	現代教員論	②		●2			
			学校と地域社会（地域と共にある学校づくり）	②			●2		
		複合領域（＊複合領 域からも2単位以上 とること）（注2）	特別支援教育実践研究論	選択必修 2	2		集中●2		
			ネット教育コミュニケーション論		2		集中2		
			ICT 教育実践論		2		集中2		
		教育実践研究科目（10 単 位）現場が抱えている問題に ついて共同研究（全員担当）	教育実践研究Ⅰ（注3）	④		9～3 月●4			
			教育実践研究Ⅱ	④			●4		
			教育実践研究Ⅲ	②				●2	
専門科目（16 単位）	専門共通必修領域 （全員担当）		教育研究方法論	②			●2		
			実践課題研究	④			●4		
	重点3 領域（注4）	授業実践開発	学習科学・授業研究方法と授業開発・実践研究	選択必修 （6＋4）	2		●2		
			小学校英語活動の授業開発・実践研究		2		2		
			「豊かな心」を育む授業実践の開発		2		2		
		生徒指導・教育 相談	生徒指導問題解決方法（Ⅰ）		2		2		
			生徒指導問題解決方法（Ⅱ）		2		2		
			道徳教育と生徒指導		2			●2	
		学級経営・学校 経営	学校と家庭・地域の連携構築		2		●2		
			学校の危機管理の理論と実践		2		●2		
			教育コミュニケーションデザイン特論		2			●2	

注1：現職教員学生は、「学校マネジメントと学校改善」が必修で、「学級経営の実践と課題」と「学校教育と集団心理療法」は選択である。学部新卒学生は、「学級経営の実践と課題」が必修で、「学校マネジメントと学校改善」と「学校教育と集団心理療法」は選択である。

注2：複合領域3科目の中から2単位以上とること（選択必修）。

注3：学部新卒学生は、3領域「授業実践開発」、「生徒指導・教育相談」、「学級経営・学校経営」にそれぞれ対応する内容の「教育実践研究Ⅰ」を計160h履修し、4単位を修得する。現職教員学生は、「教育実践研究Ⅰ」（160h）は自分の選択した領域で行う。

注4：重点3領域は、1つの核となる領域を選択して、その領域の3科目（6単位）を全て履修し、その他の領域から各2単位ずつ計4単位を履修して、10単位以上を修得すること。

⑥「学級経営・学校経営」領域の現職教員学生Fの履修モデル

Fは、15年の学校現場の経験を持ち、「学校経営」の領域を核として学びながらも生徒指導問題解決方法Ⅰ・Ⅱ、道徳教育と生徒指導の分野が学校経営に必要と考えている現職教員学生である。

表5-6 「学級経営・学校経営」領域の現職教員学生Fの履修モデル

(●印はBが履修する科目、②は2単位で必修科目、丸印なしは選択科目、計48単位修得)

領 域		授 業 科 目	単位		1 年次		2 年次			
			必修	選択	前期	後期	前期	後期		
共通科目 (22単位)	共通5領域 (20単位以上とること) (選択必修)	教育課程の編成・実施	「21 世紀型能力（確かな学力）」を育成するカリキュラム・デザイン	②		●2				
			学校カリキュラム・授業の改善を図るためのマネジメント	②			●2			
		実践的な指導方法	「21 世紀型能力（確かな学力）」を育成する協働的な学びの授業デザイン	②		●2				
			小学校英語活動の授業デザイン	②		●2				
			ICT 教育実践論		2		集中 2			
		生徒指導・教育相談	生徒指導実践論	②		●2				
			教育相談実践論	②		●2				
		学級経営・学校経営（注1）	学級経営の実践と課題	選択必修 4	2	2				
			学校マネジメントと学校改善		2		●2			
			学校教育と集団心理療法		2	●2				
		学校教育と教員の在り方	現代教員論	②		●2				
			学校と地域社会（地域と共にある学校づくり）	②			●2			
	複合領域（＊複合領域からも2単位以上とること）（選択必修 注2）	特別支援教育実践研究論	選択必修	2		集中 2				
		ネット教育コミュニケーション論		2		集中●2				
教育実践研究科目（10 単位）現場が抱えている問題について共同研究（全員担当）		教育実践研究Ⅰ（注3）	④		●4					
		教育実践研究Ⅱ	④				●4			
		教育実践研究Ⅲ	②					●2		
専門科目 (16単位)	専門共通必修領域（全員担当）		教育研究方法論	②				●2		
			実践課題研究	④				●4		
			授業実践開発	学習科学・授業研究方法と授業開発・実践研究	選択必修（6＋4）	2		2		
	小学校英語活動の授業開発・実践研究	2				2				
	「豊かな心」を育む授業実践の開発	2					●2			
	生徒指導・教育相談	生徒指導問題解決方法（Ⅰ）	2			●2				
		生徒指導問題解決方法（Ⅱ）	2			2				
		道徳教育と生徒指導	2				2			
	学級経営・学校経営	学校と家庭・地域の連携構築	2			●2				
		学校の危機管理の理論と実践	2			●2				
		教育コミュニケーションデザイン特論	2					●2		

注1：現職教員学生は、「学校マネジメントと学校改善」が必修で、「学級経営の実践と課題」と「学校教育と集団心理療法」は選択である。学部新卒学生は、「学級経営の実践と課題」が必修で、「学校マネジメントと学校改善」と「学校教育と集団心理療法」は選択である。

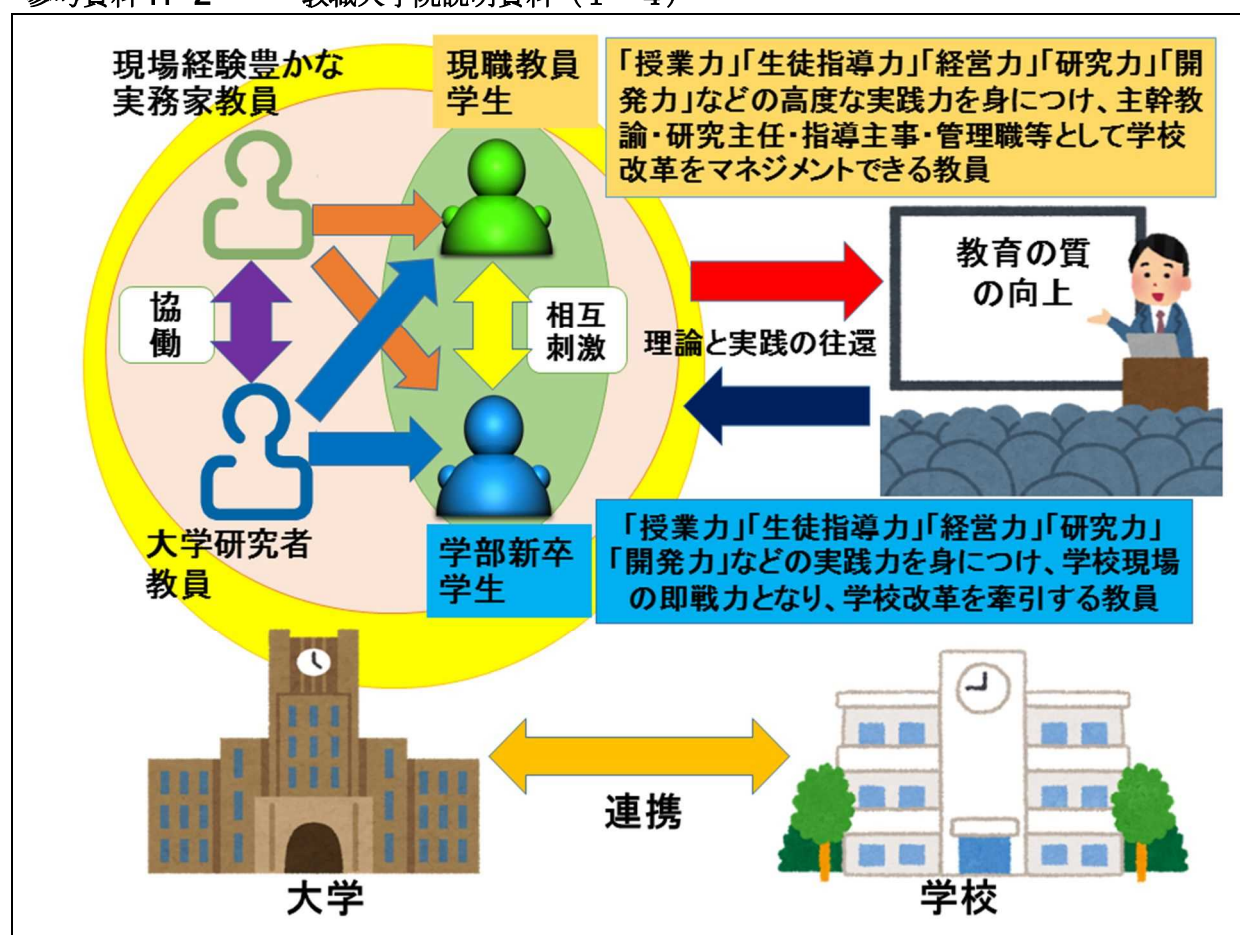
注2：複合領域3科目の中から2単位以上とること(選択必修)。

注3：学部新卒学生は、3領域「授業実践開発」、「生徒指導・教育相談」、「学級経営・学校経営」にそれぞれ対応する内容の「教育実践研究Ⅰ」を計160h履修し、4単位を修得する。現職教員学生は、「教育実践研究Ⅰ」(160h)は自分の選択した領域で行う。

注4：重点3領域は、1つの核となる領域を選択して、その領域の3科目(6単位)を全て履修し、その他の領域から各2単位ずつ計4単位を履修して、10単位以上を修得すること。

参考資料 11-1 アンケート結果（平成 28 年 1 月 21 日、26 日実施）

項目	人数
教職大学院に進学したい	5 名
教員採用試験に有利であれば進学したい	24 名
採用試験に合格した場合にも教職大学院修了後まで合格が保証されれば進学したい	24 名
教職大学院修了後の教員生活に有利であれば進学したい	19 名
学校現場での経験を積んだ後に進学したい	8 名
教職大学院に興味があるのでもっと情報がほしい	27 名
今は関心がない	118 名
わからない	20 名
その他	9 名



教職大学院で養成する人材像

高度な授業実践指導力

学級・学校経営と生徒指導への対応力

学校を取り巻く現代的な教育課題への対応力

- ✦ 学校現場等での実践的能力
- ✦ 研究者教員と実務家教員による理論と実践を具現化する指導
- ✦ 学部から進学した学生と現職派遣の学生による協働学習



平成29年度

教育学
研究科

修士課程

学校教育専攻

教科教育専攻

学位：修士（教育学）

修業年限：2年

修士論文、32単位

専門職課程

教職実践開発
専攻

授業実践開発領域

生徒指導・教育相談領域

学級経営・学校経営領域

学位：専門職学位
（教職修士）

修業年限：2年

修士論文なし、学習成果報告書作成、
48単位（10単位分の教育実践研究）

平成29年度以降

教育学研究科

修士課程

教職大学院

教職実践開発
専攻

授業実践開発領域

生徒指導・教育相談領域

学級経営・学校経営領域

学位：専門職学位
（教職修士）

修業年限：2年

修士論文なし、学習成果報告書作成、
48単位（10単位分の教育実践研究）

参考資料 11-3 アンケート用紙

(アンケート用紙)

平成 28 年 1 月 26 日

教育学部 3 年次学生へ

教育学部学部長

教職大学院に関するアンケート

平成 29 年度に従来の修士課程に加えて教職大学院を設置する予定です。この教職大学院は、現場経験豊かな実務家教員と研究者教員によって理論と実践を融合した教育を行うものです。ついては教職大学院に関する説明を聞いた上で、教職大学院への進学志望について回答してください。

1. 卒業後の進路について、いずれかに☑をしてください。

- ☐ 教員志望（卒業したらすぐに教職に就く）
- ☐ 教員志望（卒業して大学院・専攻科等に進学した後、教職に就く）
- ☐ 将来的には教員志望（他業種〔公務員、民間企業〕を経験した後、教職に就く）
- ☐ 公務員志望
- ☐ 民間企業志望
- ☐ 未定
- ☐ その他（_____）

2. 教職大学院への進学志望について、いずれかに☑をしてください。

- ☐ 教職大学院に進学したい
- ☐ 教員採用試験に有利であれば進学したい
- ☐ 採用試験に合格した場合にも教職大学院修了後まで合格が保証されれば進学したい
- ☐ 教職大学院修了後の教員生活に有利であれば進学したい
- ☐ 学校現場での経験を積んだ後に進学したい
- ☐ 教職大学院に興味があるのでもっと情報がほしい
- ☐ 今は関心がない
- ☐ わからない
- ☐ その他（_____）

3. 教職大学院について、質問・意見等があれば、以下に記入してください。

--

教 評 価 第 3.7 号

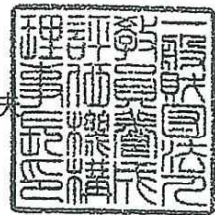
平成27年12月15日

熊 本 大 学 長

原 田 信 志 殿

一般財団法人教員養成評価機構

理事長 田 村 哲 夫



熊本大学教職大学院の認証評価実施について

貴大学に設置予定の専門職大学院設置基準第26条に規定される教職大学院について、学校教育法第109条第3項に規定する認証評価は、貴大学からの申請に基づき当機構で実施いたします。

(本件担当)

〒184-8501

東京都小金井市貫井北町 4-1-1 東京学芸大学内

一般財団法人教員養成評価機構事務局

清水・山本・大町

Tel:042-329-7860 Fax:042-329-7889

E-mail:hyokajimu@iete.jp

参考資料 13 「教育実践研究」の履修パターン

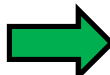
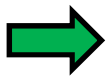
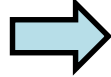
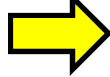
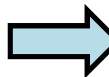
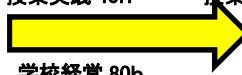
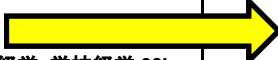
13-1 「教育実践研究」の履修パターン（学部新卒学生の例）

< 1 年次通年 > 教育実践研究Ⅰ：課題発見・分析(4) (3 領域×54h = 160h)	
「生徒指導・教育相談」領域	
1 年次前期に週1回4h×4回(16h)	前期に集中約5日(1日 8h)程度
「授業実践開発」領域	
1 年次後期に週1回4h×4回(16h)	後期に集中約5日(1日 8h)程度
「学級経営・学校経営」領域	
1 年次後期に週1回4h×4回(16h)	後期に集中約5日(1日 8h)程度
< 2 年次前期 > 教育実践研究Ⅱ：課題分析・解決(4) (160h) 4 単位	
2 年次 4～5 月初旬に週 1 回×4 h×5 回 (20h)	2 年次 5 月中旬に集中 5 日×8h の 40h
2 年次 6 月下旬～7 月に週 1 回 4 h×5 回 (20h)	2 年次 6 月に集中 5 日×8h の 40h
	2 年次 7 月初旬に集中 5 日×8h の 40h
< 2 年次後期 > 教育実践研究Ⅲ：検証・評価(2) (80h) 2 単位	
2 年次 9～2 月に、週 1 回 4h×10 回 (40h)	2 年次 9～2 月に集中 5 日 (8h×5 回で 40h)
又は、週 1 回 8h×5 回 (40h)	

13-2 「教育実践研究」の履修パターン（現職教員学生の例）

< 1 年次通年 > 教育実践研究Ⅰ：課題発見・分析(4) (160h) 4 単位	
1 年次前期に週1回 8h×5回(40h)	1 年次後期に集中 10 日×8h(80h)
1 年次後期に週1回 4h×10 回(40h)	
< 2 年次前期 > 教育実践研究Ⅱ：課題分析・解決(4) (160h) 4 単位	
2 年次 4～5 月初旬に週 1 回 4h×5 回 (20h)	2 年次 5 月中旬に集中 5 日×8h の 40h
2 年次 6 月下旬～7 月に週 1 回 4 h×5 回 (20h)	2 年次 6 月に集中 5 日×8h の 40h
	2 年次 7 月初旬に集中 5 日×8h の 40h
< 2 年次後期 > 教育実践研究Ⅲ：検証・評価(2) (80h) 2 単位	
2 年次 9～2 月に、週 1 回 4h×10 回 (40h)	2 年次 9～2 月に集中 5 日 (8h×5 回で 40h)
又は、週 1 回 8h×5 回 (40h)	

参考資料 14 「教育実践研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」の年間スケジュール（例）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
	拠点校連絡 調整会議						拠点校 連絡調整会議					
	教育実践研究Ⅰ（通年4単位=160 時間）											
	学部新卒学生の場合:3つの領域をすべて履修して4 単位											
	生徒指導・教育相談(4/3 単位) + 授業実践開発(4/3 単位) + 学級経営・学校経営(4/3 単位)											
1 年 次	週1 回型 16h × 3領域											
		生徒指導 16h						授業実践 16h		学級経営 32h		
	集中型 5 日程度 × 3領域											
						生徒指導 38h		授業実践 38h		学級経営 22h		
	現職教員学生の場合:1つの重点領域を選択して4 単位											
	生徒指導・教育相談(4単位) 又は 授業実践開発(4単位) 又は 学級経営・学校経営(4単位)											
	週1 回型 80h											
		生徒指導 80h						授業実践 40h		授業実践 40h		
										学校経営 80h		
	集中型 80h											
						生徒指導 80h		授業実践 80h		学校経営 80h		
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
	拠点校連絡 調整会議						拠点校 連絡調整会議					
	教育実践研究Ⅱ（半期4単位=160 時間）						教育実践研究Ⅲ（半期2単位=80 時間）					
	学部新卒学生・現職教員学生共通: 1つの重点領域を選択して4単位						学部新卒学生・現職教員学生共通: 1つの重点領域を選択して2単位					
2 年 次	週1 回型 80h						週1 回型 80h					
												
	授業実践 20h						授業実践 40h					
												
	生徒指導 80h						生徒指導 40h					
												
	学級経営・学校経営 80h						学級経営・学校経営 40h					
	集中型 80h						集中型 80h					
												
	授業実践 40h						授業実践 40h					
												
	生徒指導 80h						生徒指導 40h					
												
	学級経営・学校経営 80h						学級経営・学校経営 40h					

参考資料 15 委員会関係の全体像

